

四国こどもとおとなの医療センター産婦人科医長

米谷直人氏

香川の医療最前線

693



●よねたに・なおと 2006年徳島大医学部卒。大阪府立母子保健総合医療センター、徳島大学病院、徳島県立中央病院などを経て、23年4月に赴任。24年4月から現職。日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、医学博士。新居浜市出身。42歳。

開腹手術に比べて小さな切開で行える腹腔鏡手術は、さまざまな治療に用いられ、婦人科でも珍しくない。ただ、県内は昨春まで全国でもまれな婦人科腹腔鏡技術認定医の空白県だったという。昨年4月、四国こどもとおとなの医療センターに赴任した同技術認定医でもある米谷直人産婦人科医長に、手術の特徴や診療時に意識していることなどを聞いた。

婦人科腹腔鏡手術

見えにくいおなかの奥まで目が届き、細かな観察や手技が可能。出血が少なく、術後の痛みも少ないため、

細かな施術 深部も可能

傷跡は小さく、痛みも軽減

退院や社会復帰までの期間も短くて済む。婦人科において、傷跡が目立ちにくいことは特に喜ばれる。

― 婦人科ではどのような病気で行われるのか。

子宮筋腫や卵巣嚢腫などの良性腫瘍、子宮内膜症などに適応されることが一般

所や大きさ、想定される癒着の程度などを総合的に勘案し、腹腔鏡手術を勧めない場合もある。

― 腹腔鏡技術認定医とは。

私が昨年4月に当院に赴任するまで一人もおらず、全国でも非常に珍しい状況だった。現在は、認定取得などで数人の認定医がいる

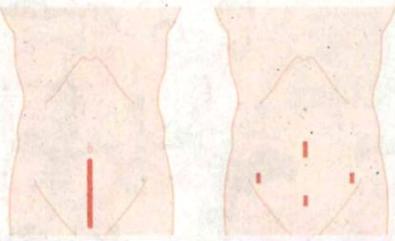
状況となっている。認定医でなくとも腹腔鏡手術はでき、なかには高い技量の医師もいると思うが、これまでに現在の国内における標準的な手術が行われているか、合併症がどれほど発生しているかなど、全体像が全く分らなかった。

― 診療で意識していることは。

近年は、骨盤臓器脱や悪性腫瘍の一部などにも広がりつつある。ただし、良性腫瘍であっても腫瘍の場合

同じ病気だからといって、画一的な対応にならないこと。例えば同じ子宮筋腫でも、月経量が多くて困る人がいれば、妊娠できなくて困る人、全く困っていない人もいる。どのように困っているのかに加えて、年齢や妊娠出産に対する考

赤線は切開のイメージ



開腹手術

腹腔鏡手術

婦人科腹腔鏡手術

え方などによって、お勧めできる治療や手術方法も変わってくる。また、女性にとって子宮や卵巣の手術は特別なこと。患者さんの不安や希望に寄り添いながら、一人ひとり最適な選択肢を提案していきたい。

― 患者に伝えたいことは。

がんのように直接命に関わるのが少ない病気だからこそ、治療の選択肢も幅広い。今は手術以外にも良い治療法がたくさんあるので、月経などに関する困りごとがあればまずは気軽に受診してほしい。

■四国こどもとおとなの医療センター婦人科

子宮がん検診や性器出血、生理痛、過多月経、おりもの異常、性感症、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、更年期症状など、さまざまな疾患に対応している。

所在地 善通寺市仙遊町2丁目1の1

電話 0877 (62) 1000

<https://shikoku-mc.hosp.go.jp/>